

社会人学生の学習支援に関する研究

小 濱 優 子

(文教大学付属教育研究所客員研究員 / 川崎市立看護短期大学)

The Research of the Support of Recurrent Students' Learning

KOHAMA YUKO

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University;
Kawasaki City College of Nursing)

要 旨

高等教育機関では、少子高齢化による教育のリカレント化が進んでいる。看護基礎教育機関でもその影響は大きく、社会人学生の受け入れが拡大してきている。しかし、学校の種類によって、受け入れている社会人学生の違いがみられる。

今回、看護基礎教育機関の教育者に対して、アンケートを行い、社会人学生についての意見を求め、その内容を比較・検討し、学習支援について考えた。

． 緒 言

「わが国の文教施策」¹⁾によると、高等教育機関のリカレント教育化が進んでいるといわれる。放送大学の整備・充実、専修学校修了者の大学編入制度、社会人特別選抜制度の実施、通信教育の増加など、教育機関は新たな制度を導入してきている。少子高齢化、経済状況の悪化など、急激な社会構造の変化によって、学校教育修了後、社会に出て働いてから、さらに学習の必要性を感じて教育を受けようとする人は少なくない。いわゆる社会人学生は、年々増加してきていると報告されている。

保健・医療・福祉の専門職領域の教育機関においても、その傾向がみられ、社会人受験

生のニーズに答えるべく、徐々に社会人特別選抜制度の実施校が増えてきている。看護協会の1999年の調査によると、社会人特別選抜制度の実施校が、看護専修学校で12.6%であった²⁾が、2001年には、看護系の大学・短期大学・専門学校全体の17.7%に増加している³⁾。同年の関東地区の看護系学校を対象とする調査では26.4%であり⁴⁾、制度が普及してきている。

看護教育機関に入学している社会人学生は、その教育機関の教育課程によって質的に異なってくる。正看護師を取得できる教育課程には2つのコースがある。准看護師が正看護師の資格を取得するために入学する2年課程「進学コース」と、初めから正看護師を目指すこ

とができる3年課程の「レギュラーコース」がある。前者に入学する社会人の多くは准看護師として働いてきた経験のある者であり、後者に入学する社会人は看護師以外の職業経験をもつ者が多い。このような様々な社会人学生を受け入れている看護教育機関では、社会人学生をどのように受け入れて教育にあたっているのか、教育者の考えを今回調査した。今回は、それぞれ2つの教育課程の違いから比較・検討し、今後の学習支援のあり方についての示唆が得られたので報告する。

なお、本研究は、文教大学大学院人間科学研究科生涯学習学専攻・平成13年度修士論文「看護基礎教育におけるリカレント教育の現状と課題」のデータをもとに新たな分析を加え、まとめたものである。

．用語の定義

本研究に関連する主要な用語の定義について説明する。

1．リカレント教育

リカレント教育⁵⁾は、ユネスコによって提唱された「生涯教育」の理念(1965年)を具体化する一つの理論として考えられた政策である。その概念は、1968年、経済学者レーンによって最初に公にされた。1973年、OECD・CERI(経済協力開発機構・教育研究革新センター)が、「義務教育ないしは義務教育後のすべての教育を対象とする包括的な教育戦略である。その基本的特徴は、教育を個人の全生涯にわたってリカレント(recurrent)に、すなわち労働をはじめ余暇・引退などの他の諸活動を交互に行う形で、分散させることにある」と定義している。

わが国における正式な定義づけは、1992年の生涯学習審議会答申の中で初めて行われている。「職業人を中心とした社会人に対して学校教育の終了後、一旦社会に出た後に行われる教育であり、職業から離れて行われるフルタイムの再教育のみならず、職業に就きな

がら行われるパートタイム教育も含む⁶⁾と定義されている。

2．社会人学生と社会人入学制度

立命館大学では、社会人学生の定義を大学卒業時の年齢22歳を一つの基準と考え、23歳以降の者を社会人学生として社会人特別選抜の対象としている⁷⁾。職業経験をもつ者を社会人学生と捉えているわけではなく、家事・家業に従事していた学生も対象としているところが多い⁸⁾。

わが国で最初に社会人入学制度を実施したのは、1978年、立教大学法学部といわれている⁹⁾。私学中心に広まり、国公立にも広まっていた。

3．看護教育制度

看護教育制度¹⁰⁾については、図1に示した。2001年11月、看護職全体の名称が変わり、「保健婦・助産婦・看護婦」から「保健師・助産師・看護師」に変更されている。資格の名称は同じでも、その教育課程は複雑で、幾つかのコースがある。

．研究方法

関東地区の看護基礎教育機関265校の教育者を対象に、郵送法によるアンケート調査を行った⁴⁾。本研究では、対象校265校のうち、専修学校3年課程58校および専修学校2年課程32校のデータを抽出して分析した。4年制大学、短期大学、専攻科などの教育機関については、教育年限や学校として管轄する省庁が異なることから、同一条件にするため、今回は除外している。

調査期間は2001年9月～11月である。

アンケートの内容は、教育機関の種類と特徴、社会人入試制度について、社会人学生に対して感じていることや教育の工夫などに関する質問16項目である。

データの集計・分析は、統計ソフト「エクセル」および「SPSS」を用いた。

結果

1. 社会人学生の受け入れ状況

社会人学生の受け入れ状況に関する回答結果を表1～4に示した。

社会人入試制度を設けて社会人学生を受け入れている学校は、3年課程で25.9%、2年課程で15.6%であった(表1)。社会人受験者数の増減についてどうか質問したところ(対前年比)3年課程では「増加している」学校が44.8%で最も多く、2年課程では「変わらない」という学校が40.6%で最も多かった。また、両者の教育課程の回答で χ^2 検定を行ったところ、「増加している」の回答で、3年課程のほうが有意に高い割合を示した(表2、 $P < 0.05$)。

教育者が、日頃、社会人学生について感じるポジティブ・ネガティブな点について質問した。ポジティブと感じる点については、表3に示すように、3年課程・2年課程ともに「目的意識が高い」が最も多く、それぞれ93.1%、87.5%であった。3年課程では、次いで「現役学生のよい刺激となる」、「社会経験を学習に生かす」の順で多かった。2年課程では、第2位が「社会経験を学習に生かす」、次いで「現役学生のよい刺激となる」の順であった。両者の教育課程で χ^2 検定を行った結果、「社会経験を学習に生かす」、「入学者減少の防止策となる」の2項目で、3年課程のほうが有意に高かった($P < 0.01$)。

また、ネガティブと感じる点についての質問では、表4に示すように、3年課程では「現役学生への教育方法では合わない」が43.1%で最も多く、2年課程では、「新しい学習が困難」が40.6%で最も多かった。

2. 社会人学生との関わりを通して感じていること(自由記載)

「社会人学生との関わりを通して感じていること」について自由記載した内容をまとめた。カテゴリーの抽出を行い、表5のような結果が得られた。抽出したカテゴリーは、

『社会人学生の特性』、『学生相互の影響』、『教員への影響』、『その他』に分類した。3年課程と2年課程を比較した結果を述べる。

『社会人学生の特性』：両課程共に「個人差が大きい」、「社会経験が豊富」、「目的意識や入学動機が明確である」という回答が多かった。3年課程では「目的が不明確」、「モラトリアムを思わせる」、「個人主義」、「ライセンス先行」などという回答もあったが、2年課程では、「目的が不明確」などの回答はみられず、「経験が先行」という回答があった。3年課程では、「中退者が出ている」という回答があったが、2年課程では「退学者は出ていない」との回答があった。3年課程では、「自己概念・価値観が確立している」という回答が多い。2年課程では、働きながら学ぶシステムの学校もあり、学生の「ゆとりのなさ」を指摘している回答も目立つ。「学習態度」では、両課程共によい点・悪い点を指摘している。3年課程では、積極的で熱心だが振幅が大きく、協調性・柔軟性に欠けるとあげている。2年課程では、熱意はあるがカリキュラム以外の活動への参加意欲がない、学習の習慣を取り戻すのに時間がかかると述べている。2年課程では、社会人学生の年齢差が大きく、18～51歳までの学生が同時に学習しているという学校もあった。

『学生相互の影響』：両課程共に「クラスメート間の影響」が大きく、よい刺激となる場合もあるが、時には社会人学生が圧迫感を与えてしまうこともあると指摘している。しかし、社会人学生が入学することでお互い影響し合い、学習効果があると感じている。

『教員への影響』：両課程共に社会人学生から教員への影響は大きい。教員が時には学生から学ぶこともあり、参考にしているという。逆に、指導が困難な場合もあり、忍耐・エネルギーを必要とすることもあったと回答している。2年課程では、教員の悩みになっていると回答したところもある。両課程共に教

員の資質や関わり方が問われており、入学者選抜には熟慮が必要であると指摘している。2年課程では、社会人として勤務した状況を把握するため、推薦状・身上書を重視しているというところもある。

『その他』：3年課程では、卒業後の就職が年齢的に困難であること、2年課程では、社会人学生の入学は以前からあり、新しいことではないとの回答があった。

・考察

社会人学生の職業経験をみると、それぞれの特徴から大きく2つのタイプに分けることができると考える。一つは、准看護師が正看護師の受験資格を取得する2年課程「進学コース」である。ステップアップして新たなライセンスを取得するという特徴があり、これを『現キャリアアップ型』と名づけたい。一方、卒業すると正看護師の受験資格を取得できる3年課程の「レギュラーコース」では、社会人学生が新しい職業に転向するという意味から、『新キャリア形成型』と表現できると考えた。このキャリアを軸にした2つのタイプから、今回の調査結果を比較してみた。

2002年、看護協会の調査¹¹⁾によると、今後の応募者数が減少すると予測している学校は、看護専修学校3年課程と2年課程で、それぞれ52.8%、47.4%を占めている。約半数の学校が加速する少子化による影響に危機感を感じている。今回の調査結果をみると、3年課程では社会人受験生が増加してきていることがわかり、看護師という新しい職業に転向したい社会人学生と、教育機関のニーズが合致し、社会人受験生の増加とその受け入れの拡大が進んでいるものと考えられた。また、今回の調査結果では、3年課程のほうが2年課程以上に「入学者減少の防止策」として社会人学生を受け入れていることから、教育側の入学者確保に対する切実さが伝わってくる。この現象の背景には、新聞・マスコミでも既

に報道されている¹²⁾ように、社会の不況・就職難に伴って、堅実な仕事を求めるライセンズ志向も考えられる。このように少子化と社会構造の変化による影響は大きく、社会人受験生の受け入れについては、教育機関にとって今後もさらに重要な課題となっていくと予測される。

また、今回、3年課程の回答では、「現役学生のよい刺激となる」との回答比率が、2年課程に比べ有意に高かったことは、社会人学生が現役学生のよい模範となっているのではないかと考えられる。自由記載のなかにも、「無駄のない学習・集中力・表現力、模範的」という回答があった。社会人学生が周囲へ与える影響は大きいものと思われる。つまり、『新キャリア形成型』の3年課程の社会人学生は、学校にとっては入学者減少の防止策となり、学生生活では社会経験を生かしてよき手本となっている様子が窺える。ただ、学歴による差は大きく、モラトリアム的な学生もいるため、教師が指導困難に陥っていること、卒業後の就職先がないことも問題となっている。

一方、2年課程の「進学コース」は、昭和32年に開設されたコースであり、歴史は長い¹³⁾。リカレント教育が45年前から既に行われていたのである。しかし、最近この進学コースに入学してくる社会人学生は、以前とは様子が変わってきている。今回の調査結果からわかるように、看護とは異なる職業を経てきた者が増加してきている。社会経験のある大卒・短大卒者が准看護師養成所に1割程の割合で入学しており、卒業後はさらに進学コースに入学しているとの報告もある¹⁴⁾。筆者の知る准看護師養成所では、社会人学生のなかに音楽大学卒業という者もいるという。比較的容易に入学して確実に資格を取得できるコースを選択している様子が窺える。働きながら学ぶシステムの学校もあるため、経済的な理由も考えられるだろう。このように、進

学コースの中に、『新キャリア形成型』の社会人学生が増加していることは、社会構造の変化と学校側のニーズによって、さらに社会人学生の多様化が進んできていることを示唆している。2年課程の教員が「教員にはエネルギーが必要」と回答しており、学生への対応に苦慮している様子もみられる。自由記載の中に、社会人学生の出産・育児に学校としてどのような態度をとればよいのかという記述もあった。学生の個人的問題ではあるが、そのときの教員のサポートは重要である。また、2年課程では、学生の過去の勤務経験を重視して選抜しようとする学校もある。全体的に、教員が指導や入学者の選抜に苦慮している状況が読み取れた。

以上のように、3年課程・2年課程それぞれ、教育上さまざまな課題を抱え社会人学生の教育にあたっていることがわかる。

一旦社会に出て働いた者が、目標を掲げ意欲的に学習する機会をもつことは、大変意義深いことである。しかし、実際、社会人学生を受け入れている教育側は、増加する新しい学習者の出現に少なからず戸惑っている。次に、学習支援の方向について考えたい。

今後の学習支援の方向・課題として、まず、第一に教育研究を進めていくことだろう。年齢差のある学生への対応に関する教育研究は少ない。榎本¹⁵⁾が行った授業のように、グループワークの演習のなかでうまく社会人学生の体験を取り込みながら現役学生と社会人学生が互いに効果的に学習できる工夫をしているという例もある。社会人学生に対する教育は、対象の特性が様々であるため、彼らの個人差、年齢差、学歴差をどう生かしていくかがポイントとなると考える。

第二に、社会的な問題への取り組みである。卒業後の就職の問題は、『新キャリア形成型』社会人学生にとっては深刻である。受け皿である就職先へのアプローチは重要であり、さらに社会全体が看護の仕事をもっと理解する

ような働きかけも大事な学習支援の一つと考える。

第三の課題として、入学選抜方法の検討である。入学選抜では、目標を明確に持ち学習を継続できる質の高い学生を見極めることが重要となる。先に述べたように、教師への影響も大きいことから、極端にいうと、学校全体の雰囲気を一変してしまう力にもなりうるだろう。吉川は、『生涯学習の扉』の著書の中で、「一定の社会経験や実務をもった成人を大学等に入れることは、大学の教育・研究活動を活性化する上で効果が大きい」¹⁵⁾と述べている。そのような活性化を促すような学生の選抜という点、入学試験だけでは判断が難しいところだろう。

これから、さらにリカレント化が進む看護教育に携わる者は、年齢的にも社会経験でも幅広い成人学習者を対象としなければならない。パトリシア・クラントンは、『おとなの学びを拓く』の中で、教育者の役割について、教師決定型から学習者決定型を経て相互決定型に至る¹⁶⁾と述べている。また、教育者が担う12種類の役割は、学習者の特性によって変わる¹⁷⁾と述べている。すなわち、専門家、計画者、教授者、ファシリテーター、情報提供者、学習管理者、モデル、メンター、共同学習者、改革者、省察的实践者、研究者の12の役割である。教育者は、成人学習者の個々の発達課題をよく理解し、相互の関係をみながら、教育者の様々な役割を効果的に発揮できるような能力が要求されてくるものと思われる。

クローズ¹⁸⁾は、「医療や看護の変化が激しくなると、生涯学習の心得なしでは質の高い看護をもたらすことはできない」と述べている。看護の教育者にとっても、生涯学習の心得は、学生の学習支援だけでなく、自分自身の教育者としての成長には欠かせない心得である。クローズは、過去の自分の学習経験がノールズの成人学習の原理に基づいたものだっ

たと評価している。しかし、クローズは、看護教育者として大人の学生に接してみて、成人教育の手法の基礎を学ぶ必要性を感じ、その後、大学院で成人教育学を学んでいる。

今後さらに社会人学生の増加が予測される看護基礎教育では、クローズが必要としたように、成人学習論（アンドラゴジー）を教育実践に取り入れ、多様な学生一人ひとりに対応していくことが重要であると考ええる。

・ 結論

今回の調査結果から以下のように結論をまとめた。

1 . 看護専修学校の社会人学生の特徴

1) 3年課程：『新キャリア形成型社会人学生』

3年課程では、今後も社会人受験生が増加すると予測され、少子化による入学者減少の防止策となっている。2年課程の社会人学生よりも現役学生のよい刺激となっており、他の学生の模範となっている。しかし、学歴による差が大きく、モラトリアム的な学生が見受けられ、中退者も出ている。

2) 2年課程：『現キャリアアップ型社会人学生』

2年課程は、准看護師養成所に大卒・短大卒者等の社会人入学者が増加し、多様化が進んでいる。キャリアアップであっても他の職業から転向してきている者が多く、新キャリア形成型社会人学生といえる。目的意識が明確、熱意もあるが、年齢差は大きく、働きながら学ぶという学校では、学生のゆとりがない。

2 . 看護基礎教育における社会人学生の学習支援の方向性と課題

今後の学習支援の方向と課題について次のように考えた。

ア . 教育方法の研究

1) 個人差への対応

2) 社会経験を生かす教育方法

3 現役学生と社会人学生が共に学習する場合の教育方法

イ . 社会的な問題

1) 就職問題

2) 看護職の正しい理解

ウ . 入学者選抜方法の検討

1) 目的意識が明確な学生の見極め

2) 学習の継続性

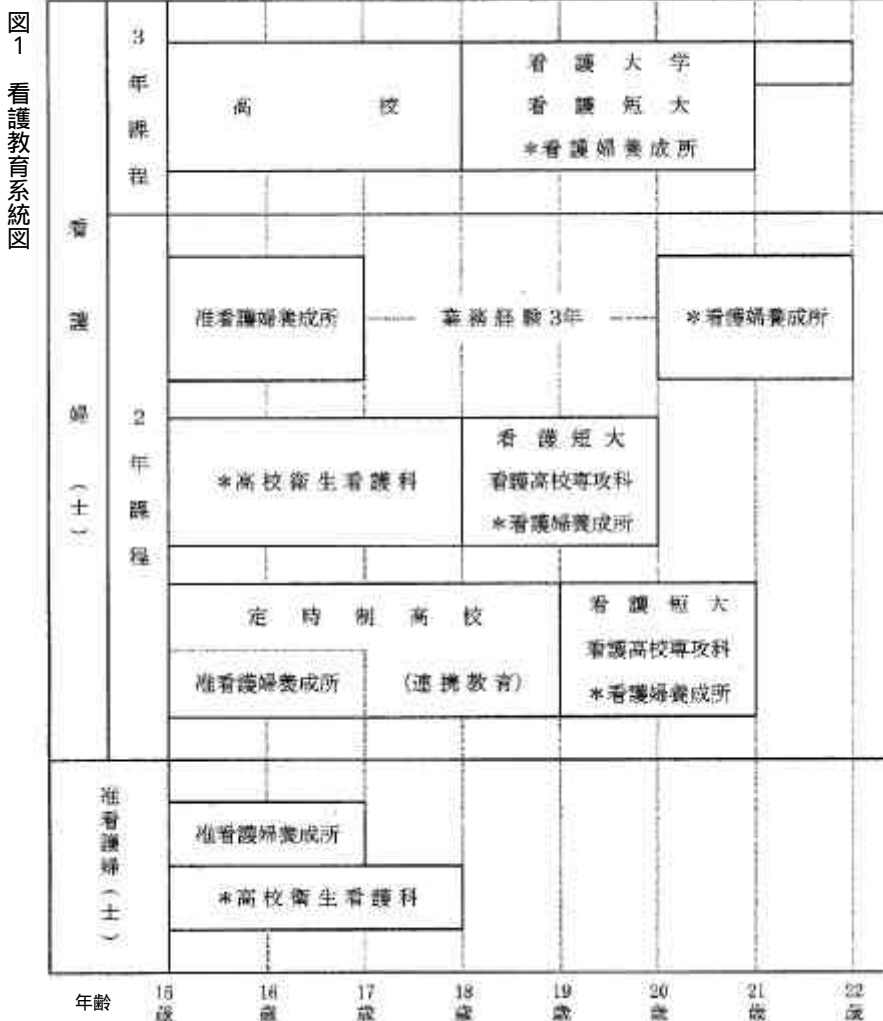
おわりに

社会人学生とは、文字通り、社会を反映する存在でもある。社会の風を背負いながら、新しいことに挑戦しようとするチャレンジャーが、医療を受ける側の感覚を忘れることなく、医療・看護の世界に常によりよい風を吹き込んで欲しいと筆者は願っている。

引用文献

- 1) 文部省編 『平成12年度わが国の文教施策』、2000、pp.140 - 143
- 2) 日本看護協会編 『日本看護協会調査報告 No57看護専修学校（3年課程）における大学・短期大学卒業者の受け入れに関する調査』、日本看護協会出版会、2000、p.17
- 3) 中央ナースセンター調べ 「社会人入試実施校」、『<http://www.nccs.nurse.or.jp/sec06/course/mini.gif>』日本看護協会、2001
- 4) 小濱優子「看護基礎教育におけるリカレント教育の現状と課題」、『文教大学大学院人間科学研究科生涯学習学専攻平成13年度修士論文』、2001、p.23
- 5) 森隆夫他 『生涯学習の扉』、ぎょうせい、1997、pp.47 - 59
- 6) 生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」、文部省、1992
- 7) 生涯学習大学セミナー報告書 『社会人受け入れの現状と課題』、財団法人日本生涯学習総合研究所、1996、p.16

- 8) 村田恵子他「社会人を経験して入学した看護学生及び准看護婦生徒の実態」、『第25回日本看護学会集録(看護教育)』、第25回、1994、p.91
- 9) 『新教育社会学辞典』、東洋館出版社、1986、p.400
- 10) 看護問題研究会監修『看護関係統計資料集』、日本看護協会出版会、2001、p.31
- 11) 日本看護協会編『看護白書』、日本看護協会出版会、2002、p.271
- 12) 「専門学校、能力社会映す」、『朝日新聞』、1999年8月9日朝刊、(12版、24面)
- 13) 前掲書10) p.33
- 14) 藤田和夫「3年課程養成所における新たな方向性をめぐって」、『看護教育』、41-3、2000、pp.193-196
- 15) 前掲書5) p.71
- 16) パトリシア・クラントン『おとなの学びを拓く』、鳳書房、1999、pp.135-136
- 17) 前掲書16) p.136
- 18) クローズ幸子「成人学習“andragogy”の手法で学ぶ」、『看護』、52-5、2000、pp.36-42



注(1)*印は定時制課程あり、修業年限1年延長

(2)保健婦、助産婦の修業年限は、看護婦教育終了後1年(法律上は6月以上)である

表1 社会人入試制度の実施

回 答	3年課程 (n = 58)	2年課程 (n = 32)
実施している	15 (25.9%)	5 (15.6%)
実施していない	38 (65.5%)	24 (75.0%)

表2 社会人受験者数の増減

回 答	3年課程 (n = 58)	2年課程 (n = 32)
増加している	26 (44.8%)*	
変わらない	11 (19.0%)	5 (15.6%)
減っている	4 (6.9%)	24 (75.0%)

* P < 0.05

表3 社会人学生に対してポジティブと感じる点

回 答	3年課程 (n = 58)	2年課程 (n = 32)
目的意識が高い	54 (93.1%)	28 (87.5%)
経験を学習に生かす	36 (62.1%)	24 (75.0%)
現役学生へのよい刺激となる	43 (74.1%)**	10 (31.3%)**
成人期の理解が深まる	17 (29.3%)	7 (21.9%)
入学者減少の防止策	26 (44.8%)**	5 (15.6%)**
看護を社会に知ってもらう	10 (17.2%)	7 (21.9%)

** P < 0.01

表4 社会人学生に対してネガティブと感じる点

回 答	3年課程 (n = 58)	2年課程 (n = 32)
経験に頼りすぎ	9 (15.5%)	7 (21.9%)
新しい学習が困難	12 (20.7%)	13 (40.6%)
現役学生への教育方法は合わない	25 (43.1%)	9 (28.1%)
異なる年齢の交友関係を作りにくい	14 (24.1%)	9 (28.1%)

表5 社会人との関わりを通して感じていること カテゴリーの抽出

	3年課程 (39校)	2年課程 (17校)
社会人学生の特性	<ul style="list-style-type: none"> 【個人差が大きい】 【目的意識・動機】明確、不明確 【学習態度】 <ul style="list-style-type: none"> よい：無駄ない、集中力、表現力、学習方法知っている、熱心、好感、努力、積極的、頑張る 悪い：振幅大きい、協調性、感性、柔軟性の欠如 【個人主義・単独行動】 【ライセンス先行】 【社会経験豊富】 <ul style="list-style-type: none"> 大人としてのよさ：模範的、礼儀、社会性、落ち着き、自立 大人としてのずるさ 【学歴による差】 【自己概念・価値観の確立】 【モラトリアム・不全感】 【中退者】 	<ul style="list-style-type: none"> 【個人差が大きい】 【目的意識・動機】明確、現実感がある 【学習態度】 <ul style="list-style-type: none"> よい：熱意は人一倍 悪い：カリキュラム以外の参加意欲はない、学習習慣をつけられない 【多様な人生観・人生経験豊富】 【多様な社会経験・処世術】 【広い視野】 【経験が先行】 【大卒・短大卒者の増加】 【他職種経験者の増加】さらなる多様化 【年齢差大きい】 <ul style="list-style-type: none"> 例：18～51才、20～45才 【働きながら学ぶ】ゆとりない 【リーダーシップ】 【退学者なし】
学生相互の影響	<ul style="list-style-type: none"> 【クラスメート間の影響】 <ul style="list-style-type: none"> よい、悪い 【多様な社会人による学習効果】 	<ul style="list-style-type: none"> 【クラスメート間の影響】 <ul style="list-style-type: none"> よい：よい刺激となる 悪い：圧迫感を与えることもある 【社会人・現役学生は共生する】
教員への影響	<ul style="list-style-type: none"> 【教員が学ぶ・参考にする】 【教員の資質・関わり方】 【入学選抜に熟慮】 【指導困難】 【卒後の連携】 【入学選抜に人数制限】 	<ul style="list-style-type: none"> 【教員が学ぶ・参考にする】 【教員の関わり方】 <ul style="list-style-type: none"> 忍耐・エネルギーが必要経験あっても初学者扱い、個別指導 【入学選抜に人数制限】 <ul style="list-style-type: none"> (現役生が多い場合) 【教員の悩み】 【勤務状況を重視】推薦状・身上書
その他	<ul style="list-style-type: none"> 【社会の影響】就職困難 	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史】社会人入学は新しいことではない